

# 平成31年度 平成31年度 新潟県公立高校入試

「公立高校入試

「公立高校入試

傾向と対策」



新潟県家庭教師協会

KATEKYO学院

# 公立高校一般入試「傾向と対策について」

**国語** (30年度平均：52.8点【29年度平均55.5点】)

【傾向】 表：過年度出題傾向

分野	出題内容	H30	H29	H28	H27
言語・知識	漢字（読み書き）	○	○	○	○
	熟語の構成		○		○
	適語補充	○		○	
	付属語	○			○
	品詞		○	○	
	用言		○	○	
	内容理解（書き抜き） 内容理解（選択）	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
古文	歴史的仮名づかい		○	○	○
	内容理解（書き抜き）	○	○		
	傍線部分の解釈・現代語訳（選択）	○	○	○	○
	内容理解（選択） 記述問題	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
評論	接続語	○	○	○	○
	適語補充		○		
	内容理解（書き抜き）	○		○	○
	傍線部分の解釈（選択） 傍線部分の解釈（記述）	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
	記述問題	○	○	○	○

- ・大問4題構成。
- ・字数制限を設けた記述問題は4問、配点40点。平成29年度より8点増。
- ・大問【3】、【4】では書き抜き問題と記述問題が64点中48点を占める。(75%!!)  
記述問題の重要性は年々高まっている。(大学入試制度改革を意識した傾向)

大問【1】(24点) **漢字** 読み書き各一問ずつ増え合計12問出題。易化傾向。  
 大問【2】(12点) **随筆** 言葉の知識、文法問題、随筆の内容理解の問題が出題。  
 大問【3】(30点) **古文** 古文と現代文の融合問題。記述問題は傍線部についての具体的内容や気持ちの読み取りが求められる。  
 大問【4】(34点) **評論** 接続語の問題、内容理解、書き抜きの問題などが出題。記述問題では2年連続で100字の問題が出題。

## 【対策】

- 現代文・記述問題では筆者の考え、意見、主張にもとづいた**説明、要約が求められる傾向があるため、自分の言葉で説明することを習慣化できるよう対策が必要。**
- ・記述問題では**部分点**を少しでも多く得点しようという意識を持って取り組む。  
そのためには模範解答に書かれてある**キーワード（根拠）**を本文中から探し、自分の解答とのズレを認識しながら自分の文章読解を修正する。➡ 読解力につながる。
- 古文・毎年出題されていた**歴史的仮名づかいの問題**が今年はお出題されなかったが、確実に出来るようにしておくこと。
- ・現代語訳や書かれている説明文から、内容や場面を正しく把握する。  
新潟県で出題される古文は、**必ず現代文での説明や訳文が与えられる**。難しい古文ではないため、現代文から内容を読み解くヒントを得るよう、実践問題を行い訓練していくと良い。
- 全体・漢字練習で**語彙力アップ**。ex 新研究の巻末、漢字検定
- ・**書き方**を学ぶ。(視写はおススメ)
  - ・文章を読むときは、①**接続語・指示語**をチェック  
②よく出てくる**キーワード、筆者の意見**にアンダーライン③**段落ごと**の要点を考える。
  - ・答え合わせをするときは、必ず**本文中で根拠を探す**。根拠を見つけられないときは学校の先生や塾の先生に確認する！

## 数 学 (30年度平均：43.5点【29年度平均49.7点】)

### 【傾向】

- ・ 大問数6題構成は例年と同じであった。大問〔1〕〔2〕の計算系の配点は50点も占めている。昨年は45点。
- ・ 大問〔1〕は基本計算など10問。その中の6、7問はここ数年同じ分野からの出題が続く。
- ・ 今年の作図問題はやや難問。
- ・ 昨年だけ『標本調査』からの出題で、他の年度は『資料の整理』からの出題が多い傾向。
- ・ 大問〔3〕の証明問題や大問〔4〕の関数の問題は、教科書にほぼ同じ類題がある。
- ・ 証明問題は、1年おきに合同と相似が交互に出題されている。今回は予想的中で相似が出題された。31年度は？
- ・ 図形の動点の問題は出題されなかった。
- ・ 規則性の問題の(1)は規則に従って書くだけで解ける易しい問題が多い。
- ・ 立体図形の問題では例年見取り図を見ながら辺の長さ、面積、体積を求めさせるのだが、今回は展開図から立体を想像させその中で長さ、体積などを求めさせる問題であった。

### 【対策】

#### ◎ 数学が苦手な生徒さん

- ・ 大問〔1〕、〔2〕を中心として出題される全学年の計算全てに対する対策をすることが最優先である。問題も基本問題からよく練られた問題まで幅広く出題されるのでいろいろな問題を解く必要あり。新潟県の過去問題は当然だが、他県の問題の大問〔1〕、〔2〕をやることをお勧めする。計算ミスが多い生徒さんは大概“小学生で習った内容の計算力不足”と“正しい解法の暗記不足”である。癖になったやり方は自力では簡単には直らないことが多いため、他者からの指導方で早いうちに改善させることをお勧めする。また、それが時間を有効に使えることに繋がる。

#### ◎ 6～7割の得点を目指す生徒さん

- ・ テスト後半の大問〔4〕～〔6〕は難しく解けないと思込んでいる生徒が多いが、意外とそうではない。(1)、(2)は基本問題が並ぶ。したがって、最初から諦めず粘り強く取り組むことが大切である。普段から模試や確認テストなどで、チャレンジして解く練習をしていこう。

#### ◎ 高得点を目指す生徒さん

- ・ 関数や平面図形・立体図形の融合問題、規則性の問題の練習が絶対に必要である。学校ではそのレベルの問題を扱う時間をあまり取らないため、積極的に他者から指導してもらう必要がある。また、証明問題の添削をしてもらう必要がある。
- ・ 図を描く練習が必要。部分的にその平面を抜き出して描いて解く練習が必要。

**英語** (30年度平均：48.4点【29年度平均50.5点】)

【傾向】

表：過年度出題傾向

【年度】

分野	出題内容	H30	H29	H28	H27
リスニング	短い英文を聞いて語句や絵を選択	○	○	○	○
	短い対話を聞いて文などを選択	○	○	○	○
	長文を聞いて、英語で答える(空所補充)		○	○	○
	長文を聞いて、要約文章の空所補充	○			
対話文	語形変化	○	○	○	○
	適語補充(選択)	○	○	○	○
	適文補充(選択)	○	○	○	○
	語句整序	○	○	○	○
	内容把握(記述)	○	○	○	○
英作文	内容把握(選択)	○	○	○	○
	資料を参考に(メールの返信)	○			
	資料を参考に(場面説明)		○		
	資料を参考に(紹介記事)			○	
長文	テーマ(行きたいところ)				○
	脱文補充(選択)	○	○	○	○
	適文補充(選択)	○	○	○	○
	指示語説明		○	○	
	内容説明(選択)			○	○
	内容説明(記述)	○	○	○	○
	英問英答	○	○	○	○
内容一致	○	○		○	

全体

- ・例年同様の問題構成。
- ・文章内容を正しく読み解き、要約する力も必要とする問題も出題された。英語だけでなく**国語的な読解力も必要**。
- ・文法だけでなく、長文をしっかりと読む練習が必要。**長文理解の重要性**が上昇傾向。

大問【1】**リスニング** 疑問詞に関する設問が多く出題。

大問【2】**対話文** **下線部の内容説明**。指示内容を正確にとらえる。出題された内容として、「**英語セミナーでの経験**」についてであった。内容把握の記述問題では、具体的内容の根拠となる英文を要約しなければならない問題が昨年に引き続き出題された。

大問【3】**英作文**は、メールの質問に対する答えとその理由について書かせるものが出題された。平成24年度にもメールの返信を書かせるものが出題されたが、出題形式はほぼ毎年変わっている。

大問【4】**長文**の内容として、文脈はつかみやすかった。構成も「原因～行動～結果」となっていて素直な文章構成。内容一致問題は文章全体を通じて理解が必要であり、時間が不足した生徒もいたはず。さらに、選択肢や設問文に熟語や文法、構文が盛り込まれており理解しにくさはあった。

## 【対策】

- リスニング対策** ⇒ ①選択肢からどんなことを聞かれるかを推測する  
②メモの取る  
③耳を慣らす⇒模試（過去問等）の問題などを使用し、**英文に聞き慣れる**ことが得策。
- 語彙対策** ⇒ **単語**：動詞から暗記する。内容を理解する上で役に立つ。  
動詞⇒名詞⇒形容詞・副詞の順で覚えると良い。  
単語暗記が苦手な生徒は、**1週間に5語程度**から始めてみると良い。  
その際は、必ずチェックテストを行うこと。
- 文法** ⇒ 基本的な文法の知識はもちろん必要だが、英語が得意ではない生徒は**並べ替え問題**や**空所補充問題**から取り組むと良い。
- 英作文対策** ⇒ 出題傾向が一定でないため、どんな問題でも対応できるよう、様々なパターンの練習が必要。  
正しい英文（基本文）を1文でも多く書けるようになることが大事。  
① 新研究などにある重要構文(基本文)を書く練習をすることから始める。  
日本語文を見て英文を書けるようになるまで目指そう。  
② 英文日記を書く。長くても3文程度（やさしい単語、文法を使う）。  
主語+動詞から書き始める。出来事の感想、気持ちなども書くとより良い。
- 長文対策** ⇒ **より多くの長文を読み、長文に慣れる！**  
できれば和訳を先生に確認してもらうことが望ましい（重要な文法が含まれている良文をしっかり意識する）。

## 社会 (30年度平均: 50.6点【29年度平均52.9点】)

### 【傾向】

- ・ 50分で38問の出題数。問題数は多くないが作図問題や記述問題で時間がかかったと思われる。
- ・ 地理34点、歴史34点、公民32点で大問は各2問ずつバランス良く出題された。
- ・ 記述問題は昨年、一昨年共に6問出題されたが今年は5題であった。代わりに図の等高線から断面図を描く作図問題が出された。
- ・ 歴史の前近代氏からの問題では、文化に関する知識が問われた。もう1題では主に日本とアメリカの関係を表す年表を用いた問題。近・現代史での年表を用いた問題は度々、出題されている。
- ・ 公民の政治分野・経済分野が融合された問題では間接税であるものを選ばせる問題がやや難しかった。国際社会に関する問題では、教科書の細かい部分からの出題が見られた。

### 【対策】

#### ◎ 社会が苦手な生徒さん

- ・ 重要単語の暗記に励むこと。問題集のコピーを何部か準備し、最初から問題の答えを見ながら暗記する方法が良い。暗記しているかどうかをコピーした用紙で確認をする。これを4、5回繰り返す。間違えた問題は本書に必ずチェックしておきテスト直前に見直しをする。

**勉強のコツ**は「時間をかけて1回やる」よりも「こまめに何回もやる」こと。

#### ◎ 高得点を目指す生徒さん

- ・ 記述問題を解説の通りに答えられるよう暗記する。それと資料や写真を通しての読み取り問題になれることが重要である。
- ・ 地理は地域毎にまとめておく。歴史では重要な出来事の年代は覚える。公民は時事問題対策のためニュースや新聞を見るようにする。
- ・ 時間がかかってしまうが2冊目の問題集も準備し、同じ用語をいろいろな角度から問われても大丈夫なように準備しておく。

理科 (30年度平均：51.4点【29年度平均48.6点】)

【傾向】

- ・異なる2つの分野を結び付けた出題は2年連続（総合問題的な出題）。
- ・大問数は7題（一昨年までは、8題）。
- ・下表の通り、各学年履修範囲から漏れなく出題された。  
（一昨年までは、2年>3年>1年の順で出題数多い傾向であった）
- ・記述問題数は6問（29年度と同じ）。配点21点（配点5点問題2問あり）。
- ・図で書け！ 図で表せ！などの出題が3問（配点10点）。

表：過去8年分 出題有無

履修学年	科目名	単元名	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	過去8年間 出題回数	
			1年生	生物	植物のからだのつくりとはたらき				○		○	
		植物のなかま	○					○			2	
	化学	物質の区別、気体の性質	○					○			2	
		水溶液の性質	○				○			○	3	
		物質の状態変化	○								0	
	物理	光と音		○							1	
		力と圧力	○	○		○			○		4	
	地学	火山と地震		○							1	
		地層と過去のようす	○		○		○		○		4	
2年生	化学	物質の分解、原子・分子	○			○			○		3	
		化合・酸化・還元、化学変化と熱	○		○						2	
		化学変化と物質の質量		○	○	○	○			○	5	
	生物	生物と細胞、行動のしくみ		○							1	
		消化と吸収					○		○	○	3	
		呼吸・血液の循環・排出のしくみ	○	○						○	3	
			動物のなかま、生物の進化			○					2	
	物理	電流の性質	○	○	○	○	○	○	○	○	8	
電流のはたらき		○								○	2	
地学	気象観測と空気中の水蒸気			○				○		○	3	
	天気の変化			○	○		○			○	4	
3年生	化学	水溶液とイオン	○	○	○		○		○		5	
		酸・アルカリとイオン						○			1	
	生物	生物の成長とふえ方	○		○	○		○	○	○	6	
		自然界のつり合い					○				2	
	物理	力と運動	○					○			2	
		仕事とエネルギー	○		○			○			○	4
		いろいろなエネルギー										0
	地学	天体の動きと地球の自転・公転				○			○	○		3
太陽系と惑星		○	○		○	○				○	5	
総合	科学技術と人間、自然と人間										0	
その他	基本操作	出題なし	ルーペ	ろ過	出題なし	顕微鏡操作	出題なし	出題なし	顕微鏡操作		4	

【対策】

- ・今後も、説明記述問題や図表の出題は続く可能性が高いため、普段から記述や図の表し方や見方などの理解を行ってほしい。1問の配点が高いため、特に、上位校を狙う生徒は大きな得点源となっていく。
- ・実験や観察の問題は、単純に実験結果の暗記だけでなく、実験の目的、その方法・結果についても理解すること。自分の言葉で説明する訓練を行っていくと理解がより深まる。
- ・同じ問題集でいいから、最低5回繰り返すことを考えた計画を立て、実行してほしい。